

# e-dream-s通信

No. 16 発行：2001年10月14日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

## 緊急特集「アメリカ合衆国、同時多発テロについて考える」

9月11日、テレビから流れる衝撃的な映像を見て、日本中、いや、世界中の人々が驚愕した。学校では、生徒が「先生、戦争になるの？」と尋ねてくる。何と答えればよいのか、何をすればいいのか、わからなかった。すると、間もなく代表理事からホームページのメッセージを更新するように依頼があった。「アメリカ合衆国のテロの犠牲者の方々のご冥福をお祈りするとともに、まだ瓦礫の中に取り残されている方の無事救出を願っています。」

井川顧問からは、アクロスが HAW でお世話になった NJ のエリック氏のメッセージが転送されてきた。ニューヨーク、マンハッタンの写真。(下に貼り付けさせていただきました。) 学生時代に友人4人でニューヨークを訪れ、あの世界貿易センタービルにも上った。胸が痛い。

e-dream-s 通信にも、今回の同時多発テロについての原稿が寄せられましたので、まずご紹介します。

理事 田辺恵美

e-dream-s.come.true

e-dream-s 通信 2001.10 No.1

## 「十字軍と聖戦」の世界観

井川好二

イングランド・プランタジネット朝のリチャード1世が、マルセイユから遙々地中海を渡り、フランス王フィリップ2世や、ドイツ皇帝フリードリッヒ1世などともに、第3回十字軍を率いてイェルサレムの奪回を企てたのは、12世紀末の1190年であった。

この第3回十字軍は、1096年から1270年まで、およそ200年に渡り合計7回行われた十字軍中でも、その参加者の顔ぶれ、戦果、リチャード1世（獅子心王: Lion-Hearted）の八面六臂の大活躍などから、もっとも十字軍らしい十字軍と呼ばれている。

一方、そのリチャード獅子心王に対するイスラムの英雄は、エジプト・アイユーブ朝のサラディンである。サラディンは、イラク出身のクルド人で、シリアに仕えた後、エジプト・ファティマ朝の宰相となり、さらにそのファティマ朝を亡ぼし、自らアイユーブ朝を建てた人物である。

戦いは、イスラムの手に落ちた聖地イェルサレムの、リチャード一世による奪回に始まる。イェルサレム都市を占拠した十字軍によって、イスラム教徒、ユダヤ教徒の大虐殺が行われ、5万人が死亡したと伝えられる。続く聖地をめぐる攻防。取っては取られる展開となるが、最終的にはイスラムのサラディンがイェルサレムを、キリスト教徒の手から奪回する。しかし、リチャードも、サラディンとの協定により聖地への巡礼権を確保し、面目躍如として帰国の途につく。第3回十字軍の4年に渡る大戦争の幕切れである。この戦いで、何十万人が犠牲になったのかは定かではないが、リチャードの勇猛と残忍、サラディンの巧緻と寛容が際立った戦争であったと云われる。

西洋中世史のおさらいをしているのは、2001年9月にアメリカで起こった同時多発テロ事件と、10月になって始まった米英軍のアフガン攻撃のニュースに、十字軍の時代から8

00年を経た現代になっても、宗教対立の構図があまりに酷似していると痛感するからである。歴史は繰り返すのか？

尤も、違いもある。当時、十字軍の殺戮の対象であったユダヤ教徒は、21世紀の現在、キリスト教国アメリカと不可分の立場にいるし、戦いの主役も変わった。この戦いの一方の旗頭はイングランドではなく、その後継者のアメリカである。イスラム側の主役は、アメリカ同時多発テロ事件の首謀者と見られるビン・ラディンとそのテロ組織、および彼らを匿い、アフガニスタンを実効支配するイスラム原理主義組織タリバン。もちろん、航空機乗っ取りだの、ミサイルだの、空母だの、戦いの道具も違うし、米ブッシュ大統領も、ビン・ラディンも、テレビを利用してメッセージを世界中に送るマスコミを利用した情報戦も、この21世紀の戦いでは行われている。

12世紀末のイスラム社会は、世界一流の文明社会であった。一方、十字軍を興した西ヨーロッパは当時、発展途上。文明の恩恵にはまだ浴するには至っていない野蛮国の集合。しかし、この東高西低の関係は、800年後の現在では、180度転回し、世界はアメリカ文明をGlobal Standardと呼ぶ。ちなみ、ソ連の侵攻と内戦に疲弊したアフガニスタンと、世界経済の頂点に立つアメリカを、国別基礎データ<sup>1</sup>で比べてみると次のようになる。

	アフガニスタン	アメリカ合衆国
人口	2,582 万人 (98 年)	2 億 7,264 万人 (98 年)
都市人口比率	20% (95 年)	77% (97 年)
国民総生産 GNP	30 億ドル (89 年推定)	7 兆 6,901 億ドル (97 年)
一人当たり GNP	200 ドル (89 年推定)	28,740 ドル (97 年)
初等教育在学率	49% (95 年)	102% (95 年)
非識字率	68.5% (95 年)	0.5% (79 年)
平均寿命 (男)	45 歳 (98 年)	73 歳 (98 年)
平均寿命 (女)	46 歳 (98 年)	80 歳 (98 年)

数字に表されたものが全てだとは云わないが、アフガニスタンとアメリカの間には、一人あ

<sup>1</sup> Imidas 2000 東京：集英社、より。

たり GNP、非識字率、平均寿命で、天地のひらきが見られるし、都市人口比率や、初等教育在学率にも、大きな違いが見て取れる。そういう意味では、十字軍当時からの変遷は著しい。

e-dream-s 通信 2001.10 No.2

それにしても、である。関係するキリスト教、ユダヤ教、イスラム教以外の立場から見れば、中東におけるこのキリスト教（ユダヤ教）対イスラム教の対立図式は、余りにも、十字軍時代の世界観と共通していると云わざるを得ない。

迂闊なブッシュが、同時多発テロ事件後のスピーチで口を滑らせ、その後慌てて引っ込めた「新十字軍」と云う表現が、ブッシュをはじめ多くのアメリカ人や、ヨーロッパのキリスト教徒の持つ先天的な心情に、強く訴えかけるものであることは、明らかであろう。

10月7日、ブッシュはアフガン攻撃の開始を国民に知らせるスピーチ<sup>2</sup>を行った。その中で、

Every nation has a choice to make. In this conflict, there is no neutral ground. If any government sponsors the outlaws and killers of innocence, they have become outlaws and murderers themselves. And they will take that lonely path at their own peril.

「十字軍」と云う言葉は使わないし、テロリストがこの戦争の標的だと云うのだが、その裏に、キリスト教 vs. イスラム教の図式が透けて見える。

今、アメリカの盟友日本が頼りにされていないのは、当然なのかも知れない。それは、自衛隊派遣の問題などではなく、宗教上の理由なのではないかと考えられる。アメリカとの共同作戦を既に開始した英国は言わずもがな、今回のアフガン攻撃に軍事的参加を表明している他の国々もキリスト教国である。カナダ、オーストラリアは元大英帝国のメンバーであるし、フランス、ドイツは、第3回十字軍の参加国であった。

ブッシュは、“May God continue to bless America.” と、このスピーチを締めくくる。大文字で始まる God が、英語ではキリスト教の神を指すことは云うまでもない。

この「十字軍 Crusade」に対するイスラムの「聖戦 Jihad」と云う表現が、イスラム教徒に呼び覚ます感覚も、「文化的 DNA」と呼べるものに違いない。ちなみに、ジハードとは、

---

<sup>2</sup> [http://abcnews.go.com/sections/world/DailyNews/strike\\_bushtrans011007.html](http://abcnews.go.com/sections/world/DailyNews/strike_bushtrans011007.html)

イスラム世界の拡大、および防衛のための戦いをさします。まずイスラム世界では、世界はイスラムの主権の確立された「ダール・アルイスラーム」でなければならないという理念があります。これをここではあえて「平和の家」と訳しましょう。そしてその「平和の家」が確立されていない現実世界を戦争のはびこった戦争社会、「戦争の家」とします。この「戦争の家」を「平和の家」に近づけるための戦いを聖戦（ジハード）と言うのです。そして同時にこの「平和の家」が外部からの圧力、多くは異教徒からの侵略ですが、それらに晒されたときに、その「平和の家」を守るために戦うこともまた聖戦（ジハード）というのです。つまり宗教的な意味合いだけではなく、理想社会設立のための戦いも含まれているということです<sup>3</sup>。

イスラム主権の確立された「平和の家」の建設の為、その「家」を異教徒の侵略から防衛する為の、聖戦。そう考えると、世界中に12億人いると云われるイスラム教徒の多くが、ビン・ラディンの「アメリカとの聖戦を！」と云う主張を受け入れるだろうことも想像できる。

結論を急ごう。我々は、この「十字軍 vs. 聖戦」の世界観に巻き込まれてはならない。キリスト教国でも、イスラム国でもない日本が、このメンタリティーに、引きずり込まれる筋合いはない。靖国神社参拝に固執する小泉首相が、この「復活した宗教劇」に、組み込まれようとアメリカにすり寄る態度は、解せない。

テロリスト、すなわち犯罪者を、逮捕拘束して、裁きの場に引きずり出すことには、賛成だが、それば、いわば「警察の仕事」であり、「軍隊の仕事」ではない。まして、戦争ではありえない。今回の事件で、「警察の仕事」の範囲で協力するのは、世界の一員としての当然の義務と考えられるが、「軍隊の仕事」の片棒を担ぐのは、納得がいかない。そして、今起こっていることは戦争と呼ぶ他ない事態なのである。

アフガン情勢は急を告げている。ブッシュの云う *Enduring Freedom* は、ますますエスカレートしていこう。日本はこの「宗教戦争」に、いつ **No** と云えるのだろうか？(Saturday, October 13, 2001)

---

<sup>3</sup> <http://ojiji.net/fan/history.html>

## 無知を知る

e-dream-s 通信 2001.10 No.3

代表理事 辻 莊 一

9月11日の同時多発テロで世界は変わったと言われている。幻想だったにせよ世界は概ね安全だと思っていた私達は、実はいつテロの脅威に晒されるともしれない世界に暮らしていると思知らされ、同時に私達のイスラム世界への無知も思知らされたのである。

今 e-dream-s は写真アーカイブ「@aglance」に向けて取り組んでいる。試作品も出来上がり、いよいよ具体化してきた。この@aglance はテーマを絞り込んだ事業だ。e-dream-s の事業の一分野である教育支援事業は様々な活動の可能性を含んでいる。その可能性の中で教材サイトしかも写真に絞り込んでいる。私達の限られた予算と資源と時間で最大限の効果を上げるためにこの絞り込みは全く正しいやり方だといえる。

一方、この@aglance 事業が公開され定着したとき e-dream-s としての教育、社会問題、世界情勢に対する考え方が問われるのも事実である。現在の e-dream-s のHPにはテロの犠牲者に対する哀悼の意だけを掲載しているが、果たしてそれだけでいいのか。もっとはっきりと立場を表明すべきではないのか。さらになにか具体的に活動をすべきではないかとの意見もある。

確かに、アフガン空爆にたいしてはもちろんのこと、「全世界の人類に対する犯罪だ」といいながら、星条旗をいたるところに掲げるアメリカの姿勢や、アフガンの人々の惨状には心穏やかでいられない。なにか行動を、せめて姿勢を示せという考えもわかる。

しかし、行動を起こすためには現状が把握できていなければならない。私達は何を知っているのだろうか。アジアについては過去10年間のアジアツアーやそれともなう読書、資料収集を通じて不十分ながら幾ばくかの知識と経験がある。それではイスラム世界についてはどうだろう。その宗教、社会、人々そして西欧世界との関わりについて私達は何を知っているのか。例えば、同じ一神教であるユダヤ教とキリスト教とイスラム教の神はどう違うのか？ユダヤ教とイスラム教には食物に対する禁忌があるのになぜキリスト教にはないのか？

私自身はほとんど知識がないといってよい。まず英語国民に興味を持ちそしてアジアへと興味を広げては来たが、イスラム世界については恥ずかしいほどの知識量しかない。少なくとも何か世界に向けて意見を発信し、行動を起こすだけのものはない。

では、どうすればよいか。まず読むことから始めるしかない、というのが取りあえずの私の答えである。そして今手元には橋爪大三郎著「世界がわかる宗教社会学入門」(筑摩書房 1800円)がある。そしてその後は？

新アジアツアー10年計画、まず手始めにサウジアラビア訪問と井川顧問は言う。

## Keep up POSITIVE thoughts and prayers!

理事 山田昌子

" I see no possibility of a peaceful solution with these crazed beasts. "

9月11日の米国中枢同時多発テロ事件後、戦争が始まるのではないかと危惧し米国の人々はどのように見ているのか知りたくて、私は数人の米国の友人に e-メールを送りました。これは、ある男性が返事してくれた、その中の一文です。彼は、私の教え子のひとりKがサンフランシスコでホームステイした際お世話になったホストです。彼にはまだ会ったことはないのですが、いつメールを送ってもすぐに返事してくれる、大変友好的な米国人です。彼はもと高校の英語の先生で、温厚であたたかい人というイメージがありました。が、「戦争しか方法はない」と書いているのを読むと、やりきれなくなり、これがアメリカの現状か?!と哀しくなりました。

別のアメリカ人の友人(高校教師)は、以下のように書いています:

"Here's hoping the least amount of force possible is needed to achieve peace! Keep up POSITIVE thoughts and prayers!"

戦争は困るけど、全面的に反対できないアメリカの状況があるのかなと思ったりします。実際返事くれた別の米国の友人で、その知り合いがハイジャックされた飛行機の客室乗務員のひとりだったという事実もショッキングでした。

K(現在大学3年)は、今年8月からニューヨーク州立大学で学んでいるのですが、最近メールをくれました。以下はその一部です。

e-dream-s 通信 2001.10 No.4

周りの友達とこのような話しをしていて、いつも最後に辿り着く結論は「私達はただ事が改善することを祈るしかない」です。なんだか、自分たちを含めた人間が無脳に思えて仕方ありません。

私自身、何かしなくては・・・と焦っていました。せめて米国大統領にメールを書き、「戦争を起こさないで！」と言いたいと思いました。ホワイトハウスのホームページを調べ、掲載されているアドレス [president@whitehouse.gov](mailto:president@whitehouse.gov) に戦争反対メールを送付しました。ところが、4、5日すると、私のメールが戻って来ました。あまりに送信されるメッセージが多く混乱しているのか、それともテロを恐れてメールボックスをシャットアウトしているのか?! その後数回再信しましたが、結果は同じでした。メールも駄目、炭疽菌の問題もありますので、手紙も駄目ということでしょうか。

とうとうアフガニスタン空爆が始まりました。12日、京都府教育委員会は、緊迫した社会情勢を踏まえ、府立学校に対して海外への修学旅行の自粛を求める通知を出し、私の勤務校でも、2月に予定されているシンガポール&マレーシアへの海外研修旅行を中止することになりました。1年次より約1年間半準備をすすめてきていますので、直前の自粛に泣いている女生徒もいたそうです。

個人的には、私はイスラム教徒である知り合いの人々の優しい顔が眼に浮かびます。数年前勤務校の海外研修旅行の下見でお世話になったマレー系シンガポール人のガイド **Jeffrey**・イスラムが合理的で平和な宗教だと輝く瞳で語ってくれたのが印象的でした。「祈りを通じて自分の中にある悪と戦うんだ。だから僕は祈るんだ。」初めて聞くイスラムの精神でしたが、私たちの生き方と何か共通のものがあるような気がしました。今も友人であるブキバトコミュニケイションクラブの中国系シンガポール人の **Mr. Michael Pek**。彼はイスラムの女性と結婚、自分もイスラム教徒になりました。夫人は優しいお母さんで、私のクラスの生徒がホームステイ中随分お世話になりました。今夏訪問したイギリスでもイスラムとの出会いはありました。老人ホームのオーナー **Mr. Anwar Phul** はモーリシャス出身の敬虔なイスラム教徒で、私たちに老人ホームの住人は自分の家族だと語ってくれました。今、彼らはどのような思いでアフガニスタン空爆をみつめているのでしょうか。

そして、今、**e-dream-s** や **ACROSS** は、何ができるのでしょうか。米国大統領、各国の首脳、国連等に、手紙やメール、ホームページなどを書き、反対を表明、他の教育関係者・団体とのネットワークづくり、賛同者の署名集め等でしょうか。私自身ももっと考え、他のメンバーと議論してみたいと思っています。でも、ひとつ言えるのは、来年夏に実施してはと提案されているシンガポール&マレーシ



アへのセミナー。どのようなセミナーになるかはまだわかりません。でも、これを通じて、何らかの形で「イスラム」を知ることができると思います。私は、異文化理解がヒントを与えてくれるような気がしています。

## 歴史に信頼を寄せること

理事 志村 洋子

9月11日、歴史が天から落ちてきたようでした。いつものように「ケネデイの就任演説」を予定していたアクロスの説明会でしたが、あまりにも現実味を帯びているので、デモンストレーションの雰囲気ではなく、「アナベル・リー」に変更しました。

9月30日、昔の生徒に会いました。私が定年になったのでこれから一緒に何か出来そうだと言います。高校時代は一人で中国籍で悩んでいたと言います。多くの人に関与して作り上げられてきた歴史に信頼を寄せることを問われている気がしました。そして、信頼を寄せることが出来るかどうかは自分がどのくらい関わるか、によっているとつくづく知る私です。

先日来の大雨で、田んぼの脇の山が崩れました。どこから崩れたかという、昔の道のあったところからでした。こんな形で昔が見えました。

いい年なので、現実をしっかりと見て行動も怠らないようにしたいものです。

みなさんも e-dream-s 通信に原稿をお寄せください。

(編集担当者が変更になりました。)

理事 田辺 恵美

[tanabe@e-dream-s.org](mailto:tanabe@e-dream-s.org)

## タスク型プロジェクト進行状況

e-dream-s 通信 2001.10

### No.5

会員みなさまの「タスク型プロジェクト」への応募を受け付けました。事務局を中心に寄せられた応募用紙をもとに、タスク別にグループ分けをしました。別紙でグループ分けを発表していますので、ご覧ください。

今後の予定については、以下のとおりです。企画書の作成・提出に向けて、早急に取り組みを始めてください。

2001年10月14日	グループ分け発表 各グループで代表を決め、20日までに連絡をください。
31日	企画書（細案）提出締め切り 個人の場合は一人一枚、グループの場合はグループで一枚。 この後、進捗状況を事務局に報告お願いします。
2002年	3月末 タスク型プロジェクトの発表会

<問い合わせ先> タスク事務局 小関 静江

## 「モノより思い出」

理事 辻 岡 尚 子

「モノより思い出」という車のCFのコピーがある。コマーシャルが流れるたびに、うまいなーって感心する。「モノ」そのものに対するアンチテーゼを、「モノ」を売らんがためのコピーにしちゃっていて、よく考えてみればおかしな話だが、説得力がある。

「モノ」の姿形に対するこだわりっていうのも、よくよく考えると本末転倒な気がする。道具としての「モノ」が、結果として美しいのは本来という気がするが、機能ではなく、ブ

ランドや姿形ばかり追いかけているのは、本末転倒という気がする。かくいう私は、この本末転倒に毒されている。例えば、コンピューターだと、絶対 Macintosh じゃなきゃヤダ、ってな具合。可愛いから。可愛くない（と思ってしまっている＝偏見を持ってしまっている）windows 機を使う気になれない。実際には、どちらを使ってもそう変わらないのは、本当は分かっている。なんせ、Word や Excel を使う程度の、筋金入りの“しょぼい”ユーザーなのだ。なのに「道具だから、使えればいい」という風にはなれない。色や形が気になり、そして、それが高じて Macintosh というブランドでなきゃ、という気になるのである。使いもしなくても。

で、Macintosh びいきのうちの居間には、i-Mac が置いてある。出まわり始めた頃買った機種だから、3年近く使っていることになる。Macintosh だから、それなりに可愛がっているけれども、「モノ」病患者の欲望には際限がない。i-Mac だって可愛いには違いないが、「どうせなら、すぐあとに出た濃いブルーの方がすっきりしていたのではないか」、「冬にこたつで作業できないから、不便」とか、「モニターが小さくて、画面が見にくい」、「同じ据え置き型なら、キューブの方がカッコいいのに」だとか思っていた私だった。

そんな時、古いほうのいいから i-Mac が欲しいという人がいた。私は私で「やはりブック型がいいから譲ってもいいな、場所をとるし、居間をもうちょっとアジアテイストか和の落ち着いた感じにするには、あのスケルトンの緑色はちょっとねー」と思って、里子に出すことに決めた。で、その代わりにブック型を買った。で、今は、メールの設定やら、ソフトのインストールやら、少しずつ環境整備をしている。やっぱり、バブリーな80年代に青春時代を送った私は「お買い物」でルンルンした気分になれるのだ。

で、くだんの i-Mac、あげると決めたのは私なのだが、それでもいざとなると、なんとなく惜しい気もしてくる。なぜかなー、と考えると、「思い出」のせいかも。はじめて、デジカメで画像を取り込みデスクトップの壁紙にした。フリーズ続きで苦労して、それまでだったら面倒くさがってマックの修理屋さんみたいなのに持ち込んでいたのを、システム総入れ替えを自分でしてみたとか。なんとも、自分のコンピューターの使いこなし度を露呈していて、恥ずかしいエピソードなんだけど。私にとってこの i-Mac は、つたなくとも、自分なりになんとかやってみてできたというコンピューター経験を思い出させてくれる「モノ」だ。

まさか今更、貰えると喜んでる人に向かって「あげるのやめーた」なんて言えやしない。それに、やっぱり、居間をもうちょっとアジアにしたいし。こんな「モノ」病のわたしの救われる道は、外観のこだわりだけで買った新しい Mac に、自分の経験という付加価値を自

分でつけてゆくしかない。そのような意味では、e-dream-s や ACROSS のタスク、というのは、放って置いたらなかなか動かない自分のエンジンになってくれるなあ、なんて考えてます。

## 現在進行中の活動報告

e-dream-s 通信 2001.10

No.6

### News A CD-ROM 化プロジェクトの進捗状況

監事 丸 野 有 利 子

飯田さんとともに、目次作成とキーワードのピックアップ作業に奮闘中です。飯田さんに後藤さん、朴さんという頼もしい助っ人が現れたように、私にも岡田さんという強力な援軍が現れ、1年半もの分量を引き受けて下さいました。お陰様で、飯田さんはほとんど完了、私はあと2年半にまで減りました。でもまだ結構な量です。ただ、恐らくアメリカのテロの影響だと思うのですが（翻訳を依頼してくる会社はワシントンに本社がある）、翻訳の仕事が減ったため時間ができたので、一気に進めようと思ったのですが、1ヶ月20ページとして1日に2ヶ月分がどうも限界です。それ以上だと、記事の一つ一つきちんと読む気力が無くなってきてしまって・・・。

10月中に終えたい、と公言したものの、ちょっとずれ込みそうです。これからでも応援して下さい、歓迎いたします。

### フォトアーカイブ @aglance

フォトアーカイブの開設に向けて、デザインを依頼している高力さんにデザインの試作を作成していただいています。現在、以下のアドレスで見ることができます。

<http://www.e-dream-s.org/aglance>

トップページのデザインは、たくさんのパターンが提示されていて、みなさんの意見をアンケート形式で募っています。早速、見てください！

## 第2回定時会員総会&パーティーに出席して

理事 阿 部 武司

昨年の9月10日、大阪駅前の高い高いビルの最上階で行われたパーティー会場の窓外から望外にも綺麗な虹を見たことを覚えている。e-dream-s 法人認証記念パーティーでのことだった。あれから一年。今ここ、大阪のど真ん中と言っていい靱(うつぼ)公園内の Holiday in Express の最上階(10階)、エアリアハウス、認証一周年記念パーティーの会場で私は先刻までの第二回定時会員総会の次第を振り返っていた。

6項目にも及ぶこの一年間の事業報告。その一つ一つがすべて道なき道を一人切り開いて行くがごときもので(あったはずで)、一年を振り返って、言うは易く、また聞くも易く、ただ行うは難し類の事業であった(ろう)。

と、ここまで振り返って、私の余りの場違いな言葉使いに、思わず上のように、その部分に( )をつけてしまった。先刻来、何となしに居心地の悪さを感じていたその理由を突きつけられた思いだった。事業報告を一人称で語れない居心地の悪さだった。

総会は私への課題に満ちていた。この度の総会には殊のほか基調音とも言うべき共通の課題意識があったように思う。それは、「この一年間は、ややもすると一部の理事の骨折りでここまで進んできたと言える。しかしこれからはそれでは一步も先へ進むまい。一人一人の会員自らが主人公にならなければ e-dream-s に明日はない。」というものであった。

パーティーが終わり、東京に戻って2週間が経つ。でも、あのパーティーを、顧問の井川先生が次のような言葉で締めくくられた、その言葉が今でも鮮明に耳の奥に残っている。

「人間は誰でも一人残らず何時かは必ず死ぬ。だったら、私は生きている間にこれだけはやった、というものを一つでも後に残して逝きたい。私は e-dream-s はその一つ足り得ると思っている。」

e-dream-s は2年目に突入した。私のこの一年は、まずこの言葉の吟味から出発することにした。

先月号で掲載するはずの原稿でした。遅くなってすみません。(編集者)

## 馬頭琴演奏会

e-dream-s の今年度の総会の後のパーティに来て下さった「白い雲」の井村康雄さんより、以下のような演奏会のお知らせをいただきました。興味のある方は是非御参加ください。

本場モンゴルから「馬頭琴の名手」来日講演 遙かなる大草原の響き

モンゴル馬頭琴音楽グループ

『アジナイホール』 AJINAI KHUUR による馬頭琴演奏

時： 10月26日（金）午後7時開演

場所： 千里朝日阪急ビル 4F A&H ホール

一般／1800円 会員／1500円

尚、井村さんからは、e-アーカイブにモンゴルの美しい写真を提供していただいています。

詳細は、山田まで御連絡ください。ちらしをもらっていますので、ファックスします。

（電話：0774-54-3241）

---

テロ事件や狂牛病関連のニュースに押されてほとんど報道がされませんでした。10月1日から、税制面で支援措置が認められる「認定NPO法人」になるための申請の受け付けが、各税務署でスタートしています。まだ問題点も多く、実際に適用になる団体はNPO法人の数%と言われていますが、各NPO団体や政党から改善の動きが活発になってきています。今後も注目していきましょう。（代表理事 中川房代）

以下、NPO 関連のニュースをお知らせします。

(シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会 NPOWEB Mail Magazine より抜粋させて頂きました)

## NPO 法人数が 5 千を超える

内閣府の統計によると、NPO 法施行以降、NPO 法人として認証を受けた団体の数が、10月5日までの累計で5045となり、5000の大台を超えた。

## NPO 制度連絡会、各党に要望書提出

10月4日、全国のNPO支援団体36団体から構成される「NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会」は、NPO支援税制とNPO法人制度の改正に向けた要望書を、各政党に提出した。

□□□□シーズからのお知らせ！□□□□

10月1日より、「NPO支援税制」がスタートしました。また、今臨時国会ではNPO法の改正が検討される予定となっています。

シーズでは、このような状況を受け、より簡易にNPOに関する情報が入手できるよう、今回、パソコンを用いずにインターネットを利用している携帯電話利用者向けに、モバイル版NPOWEBを開設しました。

モバイル版では、NPO法やNPOの政策に関する最新ニュース、助成金情報、イベントお知らせなどの情報を掲載します。

iモード、J-SKY、Ez-webなどの携帯電話端末でご覧いただけます。ぜひご活用ください。

URL □ <http://www.npoweb.gr.jp/m/>